

鈴木ひとみ市政報告



鈴木ひとみ

ごあいさつ

例年よりも早く梅雨が明け、この夏どこまで暑くなるのか心配になると同時に、電力不足、燃料、食品をはじめとする物価の高騰などたくさんの不安要素があります。食料、エネルギーの国内自給率を高めること、地球温暖化がこれ以上進まないよう努力することなど、言い続けられてきたことに本気で取り組まないと、次の世代に大変な思いをさせてしまいます。子どもたちに住みよい地球を残すことを大人として真剣に考えたいと思います。

令和4年6月市議会定例会 一般通告質問より

子育て、教育施策を充実させ、ここに住みたいと思えるまちづくりを

～市の人口及び財政の将来予測と 建て直しのための戦略について～

館山市の長期経済推計では、令和9年度に財政調整基金が底をつき、その後も毎年5億円程度の赤字が出ると予測しています。

総合計画の人口推計では、2015年と比較して、2040年には年少人口(0～14歳)は60%、生産年齢人口(15～65歳)は66%になるとしています。このままでは館山市はどんどん萎んでしまうのではないかと不安になります。これに対する戦略を質問しましたが、館山市行財政改革委員会に諮問した第4次行財政改革の中で検討していくという答えでした。

多くの自治体が、子育て世代を呼び込もうと競い合っています。テレワークが進み都会を離れる若者が増えています。移住先として選ばれるためには、子育て、教育環境の整備は欠かせません。けれども全国的な常識である幼稚園の3歳児クラスが、館山市の幼稚園、こども園の短時間枠ではいまだに実現されていません。老朽化した中央保育園、海拔の低い純真保育園の問題は先送りになっています。北条幼稚園、那古幼稚園をこども園化し、3歳児の短時間枠も創設して、早急に保育環境を整備することが必要です。



また、子育て世帯への家事支援、一時預かりの充実も求められます。今後、小中学校の統廃合を考える中で、魅力的な学校づくり、子どもたちが生き生き学べる環境づくりも進めて欲しいと考えます。

若い人たちがここで働き、子育てをすることで市は活性化し、財政も立て直せます。

再生可能エネルギーを活用し、資源を循環させるまちづくりを

～「館山ゼロカーボンシティ宣言」後の取り組みについて～

市では、「循環型社会の形成」「省エネルギーの促進」「環境負荷の少ないまちづくり」の3つを柱に取り組んでいます。

館山市広報「だん暖たてやま」での呼びかけ、「生ごみ処理機等購入費補助金」「館山市住宅用設備等脱炭素化

促進事業」「バイオマスプラスチックを配合したごみ指定袋の導入」など様々な取組を実施しています。

市民の意識も向上し、「生ごみ処理機等購入費補助金」には当初予算の1千万円を超える申請があり、今議会で更に1千5百万円の補正予算を組みました。